

# サル由来Bウイルス 国内初感染

## 鹿児島 技術員 接触の可能性

鹿児島市は二十八日、同市内に

ある医薬品開発受託・研究会社「新日本科学」の動物実験施設で、技術員一人がサル由来のBウイルスに感染したと発表した。感染事例は世界でも五十例程度で、国内での確認は初めて。サルとの直接接触などで感染するとされ、空気感染はなく、拡大の恐れはないとしている。

市などによると、技術員は今年二月に頭痛や発熱で医療機関を受診。脳炎の症状が長引いたため、八月末に鹿児島大病院に入院し、検査の結果、十一月に感染が確認された。重症の場合、神経障害などの後遺症があるが、新日本科学はプライバシーを理由に症状を明らかにせず「容体は安定している」とだけ説明した。

同社によると、技術員は薬に使う化合物の安全性をサルなどで実験する施設「安全性研究所」で感染。防護服を着て作業していたが、何らかの形でサルの尿や唾液などに触れ、感染した可能性があるという。かまれたり、引っかか

れたりしたことはなかった。

研究所では、アカゲザルとカニクイザルの二種類を飼育。市によると、市と厚生労働省、国立感染症研究所が十一月二十一、二十二両日に立ち入り調査したが、管理に問題はなかったという。

同社は防護服の機能を強化するなどして感染症対策を進めており「さらなる厳重な管理体制を敷き、再発防止に全力を尽くす」としている。

国立感染症研究所ウイルス第一部の西條政幸部長は「日本で発症が確認されたことで、サルと日常的に接する研究者や動物園の職員らはより予防策に気をつける必要がある」と語った。



### Bウイルス 国立感染症

研究所によると、サルは高い確率でBウイルスを保有。サルにかまれたり、唾液などの体液に接したりすることで人に感染、発症する。局所的に水泡(すいほう)ができ、神経を通じて脳炎を引き起こす。世界での感染事例は50例程度。